

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000247		
法人名	社会福祉法人 山輝会		
事業所名	グループホーム プリランテ明石		
所在地	兵庫県明石市北王子町13-41		
自己評価作成日	平成26年12月17日	評価結果市町村受理日	2015年 3月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成27年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>明石西公園に隣接した恵まれた環境の中で、地域とのつながりを大切にしながら、入居者様一人ひとりが持てる力を最大限に活かしながら『普通の暮らし』を送っていただけるよう支援しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事は普通の家と同じように材料の買い出しから入居者様と一緒に作り、一緒に作り、お昼にはパートナーと一緒に食べています。 ・毎朝の散歩を日課として取り入れ、体力の向上、閉じこもりの防止に努めています。 ・日々の様子をブログで発信し、ご家族等に入居者さんの表情を見ていただけるようにしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>最後まで輝ける「第二のわが家」を目指している。事業所は、認知症であっても、一人ひとりのペースで、これまでの生活習慣を維持できる環境と、職員の認知症への理解を深め、コミュニケーション能力の向上に取り組んでいる。職員は、介護者という立場ではなく、利用者が普通に暮らすことを温かく見守るさりげない応援者のごとく寄り添っている。仲の良い利用者同士がおしゃべりしたり、食事の準備や後片付けを協力し合い、支え合いながら共同生活を送っている。今、事業所は利用者の住み慣れた所で暮らし続けたいとの思いを受け、地域とのつながりを深めるべく模索している。利用者と地域のつながりを深め、継続していくためにも、今後は、より開かれた施設として、地域の人が気軽に立ち寄れる講座の開催や相談窓口など、地域から必要とされ、期待される機能の活用も検討してみてもどうか。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	パートナー(職員)が、理念を常に意識できるよう、事業所内の目に付く場所に掲示している。また、法人内の事業計画にも落とし込み、理念の実現に向けて取り組んでいる。	集団ではなく、利用者一人ひとりの生活を尊重した「普通の暮らし」を目指している。共同生活の中にあっても、個々のペースを大事にすることを職員は心がけ、会議等で、個々の状態を確認、共有を図っている。他者との関わりからも参考にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りやイベントには参加させて頂いているが、日常的な交流とはなっていない。しかし、そういった地域のイベントへの参加、毎日の散歩や買い物を通して、地域の中に顔なじみの方が増えてきている。	地域の季節行事等には、毎回参加している。幼稚園の運動会に応援に行ったり、中学生の体験授業も受け入れている。毎日の食材の買物時や周辺を散歩した折には、挨拶を交わすことも増えてきている。	事業所に気軽に来訪してもらえる双方向の交流の場を、工夫されてはいかがか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度、同法人の在宅介護支援センターが開催した『認知症サポーター養成講座』にて、入居者様のご家族に体験談をお話いただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、サービスの報告を行うとともに、委員より頂いた意見をサービスに反映している。また、地域のイベント情報もお教え下さり、参加に繋がっているものもある。	地域代表者、入居者、家族、法人の在宅介護支援センターが主なメンバーである。日々の行事報告だけでなく、法人としての取り組み、事業所での事故報告や職員の研修状況についても報告するなど、認知症への理解にも努めている。同時に、親睦も兼ね昼食会も設けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上の疑問点などがあれば、市の担当者に確認しながら進めている。	制度内容や変更があった場合等、質問したり、相談するなど、必要に応じた事務連絡にとどまっている。今後は、少しずつでも積極的な情報交換を図り、協力関係を築いていきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関は、夜間の戸締りややむを得ない場合以外は施錠していないが、玄関先にセンサーチャイムを設置している。外へ行きたい訴えがある時には、可能な範囲で付き添うようにしている。	原則、拘束はしない方針としている。職員は、法人内研修や利用者個々のケアの中で、個々の意識統一を図っている。玄関の出入りについては、チャイムにより把握し、個々に見守っている。毎日の買物や散歩等により、利用者の閉塞感軽減に努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	新入職者に対しては、法人として虐待防止に関する研修を行っている。また、主任が中心となり、入居者様との関係でストレスとなることについてパートナーの話を聞き、虐待を未然に防ぐよう努めている。	入職時研修にて、法令等も含め学ぶとともに、老いや認知症について学ぶことで、より理解を深めている。管理者は、職員間の言葉かけや言葉遣いについては、普段から注意したり、職員と個別に話す機会を持つなど、メンタル面にも配慮している。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉士として後見人となるための研修課程を修了している主任を講師として内部研修を予定しているが、実施できていない。	この度、成年後見制度に関する研修を実施し、制度内容等の基本的理解に努めた。現在、3人の該当者がおり、情報交換を図っている。制度活用についての認識はあり、必要に応じて情報提供している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書及び重要事項説明書、金銭にかかる同意書の説明を個別に行い、疑問点がなくなつてから契約をしている。入居後に出た疑問点も、その都度、説明させて頂いている。	まず、事業所の方針や姿勢を通じて、グループホームの理解を得ている。その他、生活状況、リスク等について丁寧に説明し、普通の生活を心がけていることも伝えている。家族からの懸案事項としては、退所時に関することが多い。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会を開催し、意見を頂く機会を設けた。また、2ヶ月に一度はパートナーから自筆の手紙をお送りし、信頼関係作りにも努めている。	運営推進会議や家族交流会からは、家族の思いや質問、意見等が挙がり、活発な意見交換となっている。普段の来訪時にも、個別に相談したり、随時電話でやりとりするなど、日常的にコミュニケーションを図っている。食事量について挙げたことがある。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議前に議題を提案できるようにしている。また、何かを決める時には、会議の場でパートナーの意見を聞きながら決めるようにしている。今年度は法人全職員を対象にした、アンケートも実施した。	事前に検討課題の資料を職員に配布し、会議での職員個々の意見や提案を、積極的に働きかけている。挙げた意見等については、まず取り組んでいく姿勢でいる。法人として、職員向けアンケートを実施し、反映に向け組織化した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として人事考課制度を導入し、個々のパートナーの日々の働きぶりや、目標に対する取り組みや結果を給与や賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のレベルに応じた外部研修に参加させたり、内部研修を実施している。外部の認知症ケアコーチと共に、事例検討会を毎月実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	明石市内のグループホーム部会に加入しており、責任者は定例会に参加している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入浴時、他の方々が就寝された後などパートナーと二人きりになれるタイミングで、ゆっくりとお話を伺うよう配慮している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談、入居前面談などでは、ご家族の思いや考えを、ありのまま受け止めるよう努め、指導的な対応とならないよう配慮している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や見学の際には、その方の現状を聞かせていただき、法人内のサービスだけでなく、他法人のサービスもご紹介させて頂いている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除洗濯料理をして毎朝散歩へ。買い物も毎日一緒に行き、協力し合って生活しているが、まだまだ介護する側として管理的な接し方をしている部分も多い。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も参加できる行事を実施したり、2ヶ月に一度、様子を伝える手紙をお送りしている。また、小さなことでもご家族に相談させて頂き、共にご本人を支えていく関係となるよう努めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ今でも行かれている方もいる。また、ご本人のお話から昔よく行っていた商店街や喫茶店へのお出かけも行っている。	日常の会話から、思いや意向を聞きとっている。行きつけの美容院への送迎を行ったり、友人と定期的に外出したり、友人宅に訪問することもある。家族や知人の来訪も多く、受診の際に自宅に寄ったり、馴染みの店と一緒に出掛けている。家族の協力は大きい。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	最近では、皆が参加できるようなレクリエーション、風船バレー、張り絵、体操、を取り入れて、共同で何かをするという場を作っている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了時、いつでもご相談いただけるよう、お声かけさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望などは、プランの更新時だけでなく、日常的にアセスメントシートに追記するようにしている。また、カンファレンスには必ずご本人も参加して頂いている。	普段の生活の中から、個別に話を聞いたり、会話から汲み取っている。買物や調理など一緒に作業をしながら、また、居室で話しをすることもある。家族から情報を得たり、把握が困難な場合は、家族と相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族だけでなく、会いに来て下さるご友人からも昔のことをお聞きし、ケアする上でのヒントとしている。また、アセスメントシートも新たな情報を書き足しやすいものを採用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後、時間が経つにつれ、一人ひとり一日の過ごし方は把握できてきている。また、心身の状態や能力などについても、申し送りやケース記録を活用し、パートナー間で現状を共有している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、パートナーの意見はプランに反映しているが、その他の関係者の意見までは取り入れられていない。また、設定期間途中での見直しは行えておらず、現状に即していない点もある。	利用者の安心、安全を心がけ、個々の楽しみや役割を反映するように努め、その人の言葉で表わすことを大事にしている。家族の意見も取り入れながら、思いに近づける内容となるよう作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は会話文も多くし、気づきや対応の参考になる様に努めているが、パートナーの経験の差等によって、単なる行動記録となってしまっている場合もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望で一緒に買い物に行ったり、外食したりもしている。また、必要に応じて通院の支援、歯科・皮膚科の往診依頼を行うなど柔軟に対応している。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのかかわりはまだ少ないが、毎日の散歩や行きつけのスーパーでの顔見知りが出てきている。その他、行きつけの美容院や喫茶店に引き続き行かれていられる。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力も得ながらほとんどの方が、入居前からのかかりつけ医に引き続き診てもらっている。ただし、ご家族の状況によっては、往診の依頼や通院の支援も行っている。	ほとんどの利用者がかかりつけ医で受診しており、家族対応である。場合によっては事業所が支援する。家族から受診結果を聞いているが、状態変化した時等、必要時には連携している。皮膚科の往診や歯科の居宅療養管理指導を受ける等、適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パートナーがとらえた情報や気づきは受診に付き添われるご家族や往診の医師にお伝えしている。また、傷の処置などであれば法人内特養の看護師の協力も得られている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との窓口を事業所が行う場合と、ご家族がされる場合で異なるが、入院中の状態把握のため、まめに連絡を取り合い、退院前には直接病院へ様子を見に行っている。	入院時は必ず付き添い、口頭で情報提供している。病院から要望があれば、文書で提供する。ケアマネジャーか主任が病院を訪問し、早期退院を目指して、働きかけている。退院カンファレンスに参加する場合もあるが、退院前に病院に話を聞きに行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合に備えて、法人内の特養にお申込みいただけることを伝えている。また、看取り介護は実施しない方針を明確にしており、ご家族に対しても文書を使い説明している。	看取りはしない方針である。重度化した場合は同一敷地内の特養に移ってもらうことになっている。特養が満床の場合は病院に入院してもらう。グループホーム本来の利用者の暮らし方を継続することを方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練も定期的には行っておらず、全てのパートナーが確実に実践できる状態とはなっていない。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災避難訓練を実施している。また、万が一、火災などが発生した場合には同一敷地内の特養と協力する体制をとっている。	防災委員会を設置し、毎月委員会を開催している。委員会では、地震対策、台風接近時の対策、備蓄品のこと等、現実的な話し合いが行われている。火災避難訓練は夜間、昼間を想定して、実施している。特養との協力体制は整っているが、地域の協力が得られるまでには至っていない。	避難訓練時に地域に、避難訓練を実施することを知らせる案内はしたが、住民の参加は得られなかったとのことなので、運営推進会議を活用して、協力をお願いしてみたいかがか。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人として接遇マニュアルを作成し、取り組んでいる。言葉がけについては、意識が高まってきている。	自分の意思で動ける言葉かけや、指示的な言葉使いにならないよう、気を配っている。申し送り時には利用者の名前をイニシャルで呼ぶなど、個人情報にも気をつけている。法人で接遇マニュアルを作成するなど、法人全体で利用者尊重に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事においても可能な限り入居者様に選択していただくようにしている。また、イベントや入浴なども、無理強いはせずご本人が「したい」と思う声かけを工夫したり、タイミングを見計らうよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝など一律に時間は決めず、お一人おひとりのペースで過ごして頂けるように支援している。ただし、入浴に関しては安全への配慮から、「寝る前に入りたい」などの希望に沿えない事もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に服選びはパートナーが決めるのではなく、入居者様と一緒に選ぶように心がけている。また、女性の髪留めの購入なども希望に応じて支援している。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い出し、調理、片付けまで、可能な限り入居者様と一緒にを行うようにしている。また、昼食はパートナーも同じものを一緒に食べ、楽しい食事となる様に努めている。	利用者の希望や要望を取り入れて、職員がメニューを作成している。利用者は食材の買い出し、調理、配膳、片付けなど、できることを手伝うことで、参加することの楽しみを得ている。朝、昼、夕手作りで、外食にも出かける。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食チェックしている。水分量は必要な方のみ個別にチェックし、飲みやすい物を提供するなど工夫している。また、毎月、体重測定を行い、増減を食事量の調整や献立作成に活かしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を取り入れ、入居者様の口腔状態の把握、改善に取り組んでいる。日常の口腔ケアについては、全員に対して毎食後は実施できていない。			

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で状況を把握し、紙パンツとパッドから布パンツとパッドに変更できた方もいる。パッドを使用しながらも、基本的に日中は全員がトイレでの排泄を行っている。	おむつをしている利用者はなく、全員トイレでの排泄である。紙パンツ使用の利用者が最初、慣れないことが原因で混乱し、失禁が多かったが排泄パターンを把握して、支援することにより、失禁が減ってきたり、紙パンツから布パンツに改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤が必要な場合もあるが、それらを少しでも減らせるよう、水分、運動、食べ物等を工夫しながら、自然排便に向けて取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、柔軟に対応しているものの、毎日入りたいなどの希望には添うことができていない。しかし、一対一のゆったりとした気持ちの良い入浴は提供できている。	基本は週2～3回の入浴である。希望があれば、毎日の入浴も可能である。湯温は利用者の好みに合わせている。鼻歌を歌ったり、職員と会話したり、長湯をする人もあるなど、個々に入浴を楽しんでいる。入浴拒否者は足浴や清拭をしたり、声かけのタイミングをはかっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方に対して、就寝までのリズム作りに取り組んだりもしている。しかし、上手いことできない事も多く、夜間に他の入居者様の睡眠を妨げてしまう方への対応に現在難しさを感じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は、1回分をひとかたまりにし、服薬日、服薬のタイミング、氏名を記し、飲み間違いの防止に努めるとともに、薬情をケースファイルに綴じ、内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居後も晩酌を楽しんでもらうなど、入居者様全員を一律に考えず、個々にお好きなことが出来るようにしている。また、買い物、料理、ゴミ捨てなど、個々の能力を活かした役割を担ってくださる方もいらっしゃる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、希望者と一緒になんかの公園まで散歩に出掛けたり、食材の買い出しに出かけている。また、外食や洋服の買い物、ドライブ、地域のイベントに参加したりしている。しかし、地域の方と協力しながらという機会は設けられていない。	毎日、近所を散歩している。おやつ時間に喫茶店に行ったり、買い物やカラオケ等にも行っている。家族と一緒に食事やお墓参りに行く人もいる。個別の外出希望にも対応し、また、すぐ近くに公園、商業施設があるなど、恵まれた外出環境であり、日常的な外出支援に努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な入居者様には、食材の買出しの際にお財布をお渡しし、お支払いをして頂いている。また、ご家族の理解の上で、個人で自由にお金を持って頂いているが、使う機会はあまりない状況。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など希望があれば個別に対応、支援している。また、パートナーが送っている2カ月に一度のご家族への手紙にご本人からの言葉を添えることもある。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が落ち着き、安心して過ごせるよう、照明、音の大きさ、温度、湿度などに配慮している。また、地域の情報や施設内のイベントの様子を思い出せるコーナーを設け、良い刺激を感じられるようにしている。	リビングは広くて、天井が高く、ゆったりと過ごせる空間である。暖炉や石造りの壁など、格調高く、利用者の作品がさりげなく飾られて、居心地よく過ごせる雰囲気作りがなされている。台所、浴室、トイレ全て、贅沢なスペースで、利用者はのんびり、思い思いの過ごし方をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも個別の空間をいくつか設けるように工夫し、それぞれの方がその時々で自由に落ち着いて過ごせるよう配慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち込む物について、制限は設けず、ご本人が安心できるものは、なんでも持ち込んで頂くようにお伝えしている。結果、使い慣れた家具や小物を配置している方もおられる。	持ち込みは自由である。利用者は仏壇や三面鏡を置いたり、孫の結婚式の写真を飾るなど、思い思いの部屋作りをしている。自分の部屋でもてなしをしたり、趣味の絵を描く利用者もあり、暮らしの場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見ればわかるようにトイレやスイッチに表示をつけているところもある。また、廊下に手すりを設置し、1人で移動できるようにしている。居室内の家具やベッドの位置や向きにも配慮し転倒の予防に努めている。		